

ムチムチ7はエロいのう わしは読みすぎて眠い

ムチムチボーイ

**FULL
COLOR**

ムチムチ専門総合同人誌



ムチムチ7
MuchiMuchiSeven

成人向

ムチムチボンバー

勇者の裏日記

旅立ち	1
おためし?	2
初体験	3
夜はふけて	4
淫乱の狂戦士	5
砂漠の女王様と	6
人質の女戦士	7
襲撃! 女僧侶	8
遊び人の願い	9
淫らな女賢者	10
女賢者の誘惑	11
貪欲な蜜壺	12
余裕の女賢者	13
想いをこめて	14
最後の宴	15
そして伝説へ	16


※注：この同人誌は二次著作物であり、SクエアEニックス、
並びにH井U二氏とは一切関係ありません、念のため



勇者として王様に許可をいただいで魔王を倒す旅に出る事になった
早速酒場に行って仲間を探したが誰にも相手にしてもらえない
途方にくれていると一人の女戦士がボクに声をかけてきた
「お前さん、仲間を探して一体どうするつもりなんだい？」

ボクが魔王を倒す旅に出るので仲間を探しに来たと説明すると、
途端にそばにいた女の僧侶と二人で笑い出したが仲間になってくれると
言うてくれたのでうれしかった

なぜか一緒に遊び人の女の人も仲間に加わることになった
女戦士曰く「只者ではないから」ということだそうだが
どういふ事だかわからない



宿屋で一緒の部屋に泊まる事になった
部屋に着くなり3人はいきなりボクを座らせて遊び人が僕のチンポをしゃぶり出した
戦士と僧侶はそばで何も言わず笑いながら見ている
ボクが訳を聞くと「これから生死を共にする仲間が裸の付き合いをしない訳にはいかない」
だからだそうだ

初めてチンポをしゃぶられた気持ち良さで
ボクは思いつきり精液を吐き出した
気が付いた時には遊び人の体中を白い精液まみれにしていた

ポクの物が堅いままでいるのを見ると戦士が
「じゃああたしは筆下るしをさせてもらおうか」
と言いながら上にまたがったかと思うと
いきなり自分の中にポクの物をズブズブと入れ出した
生まれて初めて入った女性の膣内はキュウキュウと締めり気持ちよかった

戦士は「これこれ！やっぱり若いのはいいねえ♡」
「ホラホラ！我慢しないで出したっていいんだよ♡」などと言いながら
盛んに腰を振っていた
気持ちよさに堪えられなくなったポクは女戦士の膣内にたっぷりと精液を
注ぎ込んでいた

戦士が終わると今度は僧侶が上に乗ってきた
ボクが疲れているのを見ると回復呪文で体力を全快にして
ゆっくとボクの物を自分の膣内に入れていった
僧侶の膣内は戦士のような激しさはないけど柔らかくてとても気持ちよかった

僧侶は微笑みながらゆっくと腰を動かしボクの物を奥まで飲み込んでいった
ねっとならと絡みつくような肉壁がボクの物をやんわりと締め付けてくると
ボクはたまらず女僧侶の膣内にドクドクと男のエキスを注ぎ込んでいた
最初の夜はこうしてふけていった



レベルが上がるまでは当分の間 基礎体力の向上という名目で
毎日セックスを義務づけられた
彼女たちの望む時、望む場所で頼まれればセックスした
ある時は女戦士と広い草原でした事もあった

戦士は木にもたれ掛かって 大きな乳をユサユサ揺らしながら
「もっと♡もっと奥までねじこんで！♡」
と狂ったように叫び声をあげながらボクの物をキュウキュウと締め上げてきた
ボクは言われるがままにチンポを奥まで突き刺し何回もドクドクと
女戦士の膣内に精液を注ぎ込んでいた
ボクは彼女たち専用の肉パイプだった

イシスの女王様に一人で夜に来てほしいと頼まれたのでひそかに訪ねてみた
女王様はボクの到着を待ちかねていたようにニッコリ笑うと
ベッドの上にボクをそっと押し倒した
ボクの上にまたがりドレスの裾をまくりあげてるとそこには
女王様の大切な部分が濡れて光りヒクヒクと蠢いていた
「ふふふ もうドロドロでしょう？ あなたが来るのを待っていたのですよ♡」
そう言いながらゆっくりと腰を沈め始めた
ボクの物が根元まで入るとゆっくりと腰を上下に動かし始めていた

「今夜一晩だけ私にコレを味わわせてくださいましね♡」
微笑みながらそう言うのと激しく動き初めた
やがて女王様は普段の清楚な女王様とは思えないほど乱れてボクの上でよがり狂っていた。
その夜、ボクは夜明けまで女王様と繋がっていた



ある時、盗賊の一味にさらわれた町の人の身代わりに戦士が人質にされていたボク達が助けに行った時には全身を精液まみれになるまで犯されていた。無事助け出して、その場では「どうってことないよ」と言っていたが宿屋に帰った後で「人助けもいいけどやっぱり口直しをしなくちゃね」と言いながらボクをベッドに誘った。

「私が犯されているのを見て興奮した？」

と聞かれてボクは思わず戦士のムチムチな巨乳やお尻が盗賊たちに揉みだかかっているのを想像してチンポを堅くしてしまっていた。それを見ると戦士は「正直なコだね」と笑っていつもよりも激しくボクを搾りあげた。



僧侶が触手のモンスターに襲われた
穴という穴を犯されて助けた時は目も虚るになっていて危ない所だった
その夜 僧侶にチンポを握り締めながら問い詰められた
「私がモンスターに襲われていた時ココを堅くしていたんじゃないの？」
ポクが正直にコクンと頷くと
「まったく人が襲われているのに節操がないんだから！」
と言われて無理やり出なくなるまで搾られた

今日は珍しく一人で部屋を取った 皆の相手をしなくともいいのかな？と考えていると
遊び人が部屋に入ってきた

いつも陽気な遊び人と違って静かな遊び人を不思議に思っ
てその事を聞くと

「明日から今までの私はいなくなるから……」
と返事をしてきた

「どうということ？」とボクが聞くと何も言わずに唇でボクの口を塞ぐとそのまま
押し倒していつものようにズブズブとチンポを入れていった



いつもと違いボクのチンポを味わうかのようにゆっくりと腰を動かすと
それに合わせて肉壁がねっとりとしてボクのものに絡み付いてくる

その艶かしい動きにたまらずボクが遊び人の奥までドピュドピュと出すと
「このままでいて」

と言ってボクの物を入れたまま抱きついて来た
そのまま一晩中、遊び人の膣内に入っていた

遊び人が神殿で悟りを開いて賢者になった

戦士が「ほらな——只者じゃなかっただろ？」と笑っていた

「女の賢者はとても珍しいのよ」と僧侶

ボクが堅くなつて改めて挨拶すると賢者は

「今まで通りで良いのよ　これからもよろしくね」

そう言つて微笑んでいた

宿屋に戻ると昨日と同じ様に賢者が一人でやってきた

「今日は賢者になったお祝いに好きにしていって。。」

そう言いながら賢者の服を脱ぐとボクに近寄ってきた

「ふふ・・賢者になつてもコレが好きなのは同じなのよ♡」
清楚な顔でニツヨリと微笑みながらボクのチンポをしゃぶり始める
柔らかな唇と舌先がボクのチンポを嘗め回す
気が付いた時にはボクは清楚な賢者の顔を自分の精液で白く汚してしまっていた

賢者は全身をボクの精液で濡らしながらも座りなおすと
「今度は生まれ変わって私の体を教えてあげるわ」

と言ってボクを誘ってきた

賢者の指先で広げられたアソコはヒクヒクとうごめいてボクを誘う

「さあ いらっしやい♥ 私のココは特別製よ♥」

妖しい笑みを浮かべる賢者にボクはたまらず飛びついた

又ルンとした感触で膣内に入ると賢者の肉壺はウネウネと動いて

ボクの上に生き物のようになり始め

それと一緒に入り口が信じられないくらいキュウツと締まってボクのを締め上げてくる

「どう? たまらないうでしよう♥」

賢者は微笑みながらどんどん入り口をきつく締めてくる

ボクはあまりの気持ち良さに情けない悲鳴を上げながら賢者の膣内に

精液を注ぎ込んでいた

賢者の膣内は気持ちがいい
ボクが情けない喘ぎ声を出しながら後ろから犯していると
賢者がクスツと笑い「好きなだけ犯していいのよ」と言われた
その言葉でチンポ堅くなる肉壺がキュウツ♡と締めてくる
ボクはムチムチした太モモを驚ぶかみにしてチンポを奥まで捻じ込んだ

「あんっ♡ いいわよ その調子♡」
さかりのついたオス犬のようにズップズップと
チンポを奥の奥まで出し入れする
その間も賢者の肉壺はボクの物を別の生き物のように
キュウキュウと締め付けて搾り出していた
ボクはそのまま何回も賢者の膣内に男のエキスを吐き出していた
・・・たっぷりと・・・一滴残らず

戦いも佳境に入り、戦闘も激しくなってきた
ちよつとした事で牢屋に入れられた事があった
牢番達が女の賢者は珍しいと言つて賢者が肉体を提供するなら
見逃してやってもいいと言つてきた
ボクは反対したけれども賢者はあっさりOKした
ボク達が牢屋から出される時には賢者は男たちに囲まれて嬲り者になっていた
賢者は平気な顔をして男たちを相手にしながら
「先に行つてて」と言つていた

心配でたまらなかつたけど、すぐに賢者は戻つてきた
どうやって逃げてきたのかと思つたら
搾り取るだけ搾り取つて疲れた所に
催眠呪文をかけて出てきたのだそうだ
ホツとしているボクに賢者が
「やっぱりちよつとイヤだったから後でヨロシクね
と微笑んだ
今夜は寝かせてもらえそうにない

いよいよ決戦の日が迫ってきた
大魔王との戦いでは誰が生き残るかは誰にもわからない
最後の戦いの前に思い残す事がないようにと数日間を4人で過ごす事にした
ボクは3人のいいオモチャにされていた

賢者と僧侶が面白がってボクが何回射精できるか回数を数えていた
二人ともボクが立たなくなると回復呪文を唱えて何回でも搾り出した
ボクは永遠に終わらない快樂地獄の中にいるようだった



戦士のセックスは相変わらず激しい
最後かも知れないという思いでボクの上に乗り容赦なく腰を動かす
戦士の柔らかい肉壺がギリギリと締め付け
ボクの精液を最後の一滴まで搾りだそうとする

何回搾り取られても女戦士のユサユサと揺れる巨乳を見ると何度でも堅くなってしまふ
そのまま何日もの間4人でセックス漬けになっていた



無事大魔王を倒す事が出来たが
もう故郷へは帰れなくなってしまった
それでもこの3人と一緒に満足だ
王様にこのまま残って欲しいと言われたが
3人と暮らす土地を探しに旅に出た
住むによい土地を見つけ4人での生活が始まった

昨日どうやら子供ができたらしいと
3人から同時に告白された
ボクにはこの3人の子供の子孫達が
いつかまた手を取り合って
世界を救う時が来るような予感がする

ムチムチボンバー 勇者の裏日記

発行 ムチムチ7 (通巻19号)

原案 火神 ダン

作画 蛸 虎次郎

発行日 西暦2006年 4月8日

URL <http://www.marimo.sakura.ne.jp/~muchi7/>

連絡先 〒160-0023

東京都新宿区西新宿7-3-10 山京ビル5F 198号

ムチムチ7

この本の無断転載・無断複製を禁じます

乱丁・落丁は魔法の玉にて破壊

無断転載・複製は我が腕の中で息絶えるがよい

●オークションの件について

当サークルはオークションに関しては一切関知致しません。

当サークルの作品をオークションに出品する事も落札する事も

特に禁止しませんが、オークションの件に関して問題があった場合、

質問をされても当方でお答えは出来ません。

●海賊版・インターネット内の配布について

当サークルの作品を当方の許可なく、海賊版の作成及び売買、

またはスキャナー等で画像の取り込みなどをして

インターネット内で不特定の人物に配布する事を固く禁じます。

